

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東 部 教 育 局
〒680-0061 鳥取市立川町六丁目176番地
東教発 R 8. 9. 9 No.186
<https://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

けいおうかいらい

継往開来

～先人の歩みに学び、次代の希望を拓く～ 局長 岡村 吉隆

先月発生しました熊本地震をはじめ、日本各地の豪雨災害により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今なお不自由な生活を余儀なくされている方々や、復旧に向けて尽力されている学校関係者・地域の皆様の安全と、一日も早い日常の回復を深く祈念しております。

相次ぐ自然災害は、私たちに「当たり前の日常」の尊さと、人と人とのつながりや日頃からの備えの大切さを教訓として気づかせてくれます。そして、私たちがこれまで培ってきた防災教育の知恵や、地域社会と連携という財産(継往)を今一度見つめ直すことが求められています。

学校教育の使命は、まさにこの「^{けいおうかいらい}継往開来」の言葉に集約されます。

先人が築いてきた豊かな知恵や文化、そして困難を乗り越えてきた経験を子どもたちに正しく引き継ぐこと、それらを糧として、変化の激しいこれからの時代を力強く生き、自らの手でよりよい未来を切り開く力(開来)を育むことこそが、私たちの果たすべき役割ではないかと思います。

学校は子どもたちが未来を描く「希望の砦」です。

先人の知恵を受け継ぎ、次代へ繋ぐ「^{けいおうかいらい}継往開来」の精神を胸に、日々子どもたちに寄り添っていただいている先生方に深く敬意を表します。

皆様の実践こそが、「子どもたちの未来を照らす光」です。東部教育局もその歩みを全力で支えてまいります。



授業改善

夏休み明けの授業をブラッシュアップ！

前期の学校訪問では、様々な準備等ありがとうございました。廊下や教室に子どもたちの「学びの足跡」が丁寧に掲示され、落ち着いて授業に向かう子どもたちの姿に、先生方の温かい御指導の成果を強く感じました。各学校の真摯な取組を踏まえ、さらなる授業改善に向け、ぜひ以下の3つの視点でご自身の授業を振り返ってみてください。

□指導事項は明確ですか？

どんな力を付けるのか、何ができるようになればよいかを明確にし、授業のねらいに応じて、めあて・発問を設定しましょう。

□「教師主導」の授業になっていませんか？

1時間の授業の中で子どもたちに学びをゆだねる場面を設定しましょう。



□学習状況を見取り、つまづいている子への支援をしていますか？

つまづきそうな部分を想定し、具体的な手立てを準備した上で支援しましょう。

授業が変われば、子どもたちの瞳は一層輝き始めます。子どもたちが「わかった！」「できた！」という喜びを感じられる授業を、共につくっていきましょう。私たちも全力でサポートいたします。

幼保小連携 ワークショップ

つなげよう！架け橋期 ～子どもの主体性を発揮させるために～



6月23日実施のワークショップは、園と小学校の教職員が、対話を通して、幼児教育と学校教育の育ちと学びのつながりを実感し、お互いの教育方法の改善について考えることをねらいとして行いました。DVDを視聴後、グループごとに演習を行ったり、鳥取県の架け橋アドバイザーである大高美穂子氏より架け橋期のカリキュラムの実施・改善についての御講義をいただいたりしました。

キーワードは、「対話」と「気付き」



幼児教育では、主体的な遊びの中で、学びの土台となる力を育てています。



小学校でも、子どもの自ら学ぶ力を信じて関わり方を考えていきたいですね。

対話を通して、参加者が「子どもの育ちの連続性」を自分事として捉え、自校・自園での取組に生かす具体的なヒントを持ち帰る姿が見られました。



大高アドバイザーの講義より

幼児教育の基礎の上に、学びを積み重ね、育ちと学びの連続性を確保することが**未来を生きる力**の育成につながります。「架け橋期のカリキュラム」を全教職員の主体的な参画のもと実施・改善することで、**保育改善・授業改善**につなげていきましょう。

参加者の振り返り【一部抜粋】

- 園での育ちや学びが、就学後どのようにつながっているか知る機会となり、自園の取組を振り返ることができた。
- 小学校では、入学後の学習や生活への適応に目が向きがちであるが、子どもたちは幼児期の豊かな遊びや体験を通して多くの力を身に付けている。1年生が安心して力を発揮できる声掛けをしていきたい。
- 架け橋期のカリキュラムの活用法について、作って終わりとするのではなく、定期的に見直して子どもたちの姿に応じて作り変えていくということを実践したい。

各校区においても、園と小学校の先生が対話を重ねることで相互理解を深め、「架け橋期のカリキュラム」の作成に取り組んでいることと思います。「架け橋期のカリキュラム」をもとにした継続的な対話の中で、園と小学校の両者が学びのつながりを意識した**実践の改善**を図り、教育の充実に努めましょう。さらに、園・学校全体としての取組にしていくことが、**主体性を発揮する子どもの育成**につながります。

特別支援教育

個々のめあてを明確にした自立活動の実践 ～特別支援教育専門員の巡回訪問から～

第1回目の訪問では、先生方がねらいを持って取り組む自立活動の授業を参観する機会が多くありました。集団で自立活動をする場合でも、「個々の課題に沿っためあて」（自立活動の目標）を持たせることが大切です。先生方の工夫を紹介します。

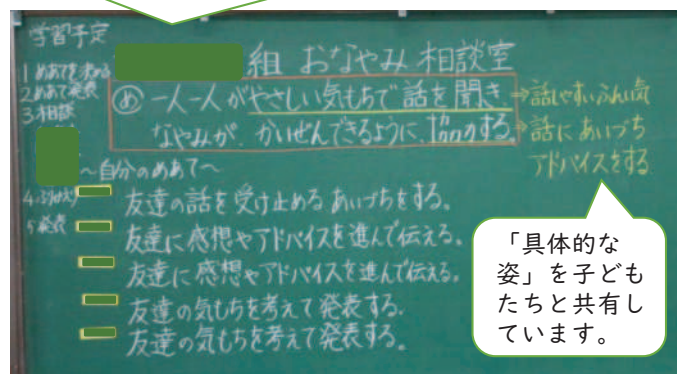
「自立活動の6区分27項目」を子どもに伝わりやすいように工夫して提示しています。



「集団のめあて」と「自分のめあて」を確認することで、個々のねらいに沿った学習をすることができます。子ども自身が自分の課題を把握し、この時間に何ができれば良いのか、めあてを自分で決めることで、主体的に活動することができます。



子どもと共有している自立活動の区分を学習履歴にも残し掲示しています。生活の中に学びを生かす工夫です。



「具体的な姿」を子どもたちと共有しています。

自立活動の基本は「個別指導」ですが、指導目標を達成する上で効果的である場合には、集団を編成して指導をすることも考えられます。集団で指導をする際には、活動ありきにならないように、一人一人の目標や指導内容、支援を個別に設定することが大切です。